令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　本城　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

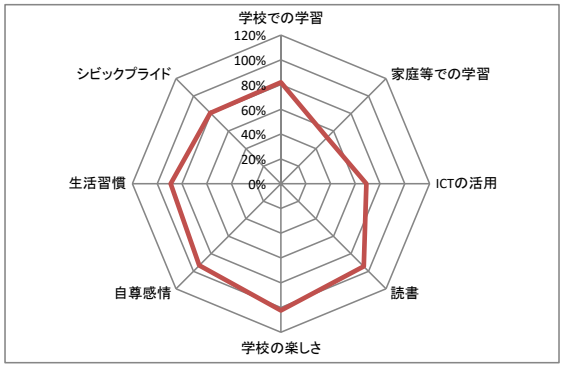
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	書くことに関する項目で思考・判断・表現を問う問題の正答率が特に低い。無回答の割合も多い傾向にある。日常的に書くことを習慣化していき書き慣れていく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	言葉の特徴や使い方に関する事項の知識・技能を問う問題	
	努力が必要な問題	思考力・判断力・表現力等に関する書くこと、読むことの問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	データの活用や図形に関する思考・判断・表現を問う問題の正答率が低い。特に記述式の問題に対しての正答率と無回答率が低い。数と計算の知識・技能など基礎を大切にしながら、問題文を意味理解できる練習をする必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	変化と関係に関する知識・技能を問う問題	
	努力が必要な問題	データの活用や図形に関する思考・判断・表現を問う問題	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「学校に行くのは楽しい」８７．８%、「友達関係に満足している」９２%と全国平均を上回る結果となっている。これは担任が子どもたち一人一人と向き合い、下学年の時からトラブルがあっても丁寧に対話を重ねてきた積み重ねだと考える。
・家庭での学習時間がとても低い。学校だけでは学力の向上は難しいため、子どもたちや家庭への家庭学習の啓発を継続して行っていく必要がある。
・授業で学んだことを他の学習で活かしているという割合が低い。今後も学校全体で授業改善を進めていき、児童が「おもしろい」「わかった」と思える授業づくりに努めていく必要がある。また、ICTを活用した補充学習を行い、個別最適な学びとなるよう取り組んでいく。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

職員研修、授業研究を行い、その都度現状を把握するとともに評価・改善を繰り返す。

②　家庭生活習慣等に関する取組

学校便り、学年便りを通して現状を知らせるとともに、保護者への啓発を行っていく。
家庭学習の取り組み方を子どもたちへ指導するなど、子どもたちが自主的に取り組めるようにする。